第３種郵便物認可

未来を創る

横須賀商工会議所90周年

◇2◇

潜在する地域力に光

領収書を日誌に貼り、費目ごとの金額を書き込む。ダウン症の19歳の息子らと暮らす母親（43）は、自営業者が税理士事務所に提出する前の資料を整えることが仕事だ。自宅で空いた時間を見つけ、作業している。

母親は、横須賀商工会議所が昨年11月に一般社団法人「ｓｕｋａｓｕｋａ―ｉｐｐｏ（すかすか・いっぽ）」と始めた事業「よこすかテレワーク」の登録ワーカー。この事業は、スキルやキャリアがありながら子育てに追われ、働きに出るのが難しかった親らが登録し、人手不足で悩む中小企業のアウトソーシングを請け負う。双方を仕事でつなぐ仕組みを整えた形だ。

ワーカーは現在、16人。受託業務はホームページのデザイン、チラシ制作、データ入力、イベントの託児などさまざまで、ｓｕｋａｓｕｋａ―ｉｐｐｏがワーカーの特性で振り分ける。

民間での勤務経験もある母親は「息子に何かあればすぐに戻れるようにしておきたい。家でできり、小遣い程度の手当ても頂けて良いですね」とほほ笑む。

■　■

ｓｕｋａｓｕｋａ―ｉｐｐｏは、障害児を持つ母親グループが一般社団化した。五本木愛代表(44)は「障害のある子の親は家にこもりがち。ささやかな仕事でも社会とつながっている、誰かの役に立っているという実感を得ることは大事なんです」と話す。

将来的には介護離職者などにも対象を広げていく計画だ。五本木代表は「社会とつながりたい人は多い。私たちの子どものことも考えれば、障害者の働き方の一つにもなっていけばいいと思う」と期待を込めた。

地域で眠る力をいかに活用するか―。横須賀経済にとって重要な命題だ。商議所の菊池匡文専務理事(59)は「これからは地域の経営資源を発掘し、経済循環をつくることがわれわれに求められている。出入りが少なく新陳代謝が緩やかな半島経済だからこそ、域内のつながりが強く、事業化につなげやすい面もある」とみる。

■　■

市民から募ったアイデアを地元企業が商品にする「コミュニティ起業オーディション」も、商議所が地域をつないだ取り組みだ。昨年、身体障害児を持つ親の発案を中小企業が介助用のスロープや食事エプロンの試作品に仕上げた。今後、クラウドファンディングで商品化を目指す。

横須賀市内では過去5年間で約1300事業所、約7千人の従業者がそれぞれ減った。「半島経済のマイナス面が出ている」と話す平松廣司会頭(69)は、再生のカギを地域に見いだす。

「経済活性化、人口減対策には2つの方策がある。一つは大企業の誘致、もう一つは市民による商品開発や小さな起業。他力ではない地域発の後者こそがより重要だと思う。小さな事業化、起業化をしっかり支えることで、結果として家計が潤い、経済活性化、人口減対策にもつながれば」

小さな「芽」を地域にいかに増やせるか。再生への挑戦は始まったばかりだ。

（高本　雅通）

領収書を日誌に整理する作業を行う登録ワーカーの母親　＝横須賀市内

三浦ミカン甘い誘惑

町内にあり、今回が4カ所目。標高約850㍍の地点の国道1号沿いに開設され、この冬から運用をスタートする。

県県西土木事務所小田原土木センターによると、町内には標高800㍍以上の地点を通る道路が複数あり、12月から3月ごろにかけて車の立ち往生などが頻繁に発生。県は路面凍結や積雪に対してより迅速かつ効率的に対応する必要性が高まっているとして、四つ目の基地設置へ総事業費1億5千万円を投じ2017年度に着工した。

基地は今年10月に完成。

のかな。

ミカンに含まれるビタミ

季節は始まったばかりだったが、甘み十分。皮が柔ら

高台で水はけが良い点。栄養を蓄えた粘土質の土と海

売り切れてしまう。カボチャやナス、キャベツなど種類も多い。これからは大根やニンジンがお薦めかな。

春には、イチゴ狩りがある。珍しい「白イチゴ」に

7日にあった完成披露式には地元事業者や町関係者らが出席し、山口昇士町長は「地元民の安心、観光客や物流の足の確保に果たす基地の役割は大きく、町としても大いに期待したい」と感謝した。

3時。「ミカン狩り」は今月30日まで。

（タイトル・画＝ビッグ錠、文＝三浦半島観光再興プロジェクト　石井亨）

毎月第2・第4水曜日掲載

300本にこも巻き　クロマツ冬支度

三浦

本格的な冬の到来を前に、県立城ケ島公園（三浦市三崎町城ケ島）のスタッフが12日、園内のクロマツを害虫から守るため、こもを巻いた＝写真。

こも巻きは、冬を越すために枝や葉から下りてくる害虫を、より暖かいもの中に込み、駆る。スは入りにある0本の元から80㌢の わらで こもを 縄で 固 た。

公園 年以上 続けて こもは 月の啓蟄のころに外にいる害虫とともに

五穀豊穣や大漁願い　海南神社面神楽

三浦

三浦市の重要無形民俗文化財に指定されている伝統芸能「海南神社面神楽」が12、13の両日夜、同神社（同市三崎）の神楽殿で奉納された。同神社の面神などを祈願して舞った。

田畑を荒らすキツネを農民が退治する「種まき」や大漁を祈願する「恵比寿の舞」＝写真＝など計11演目を上演。境内に笛や太鼓の音色が響く